



こんにちは！ 日本共産党の

大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

2008年12月5日 111

〒319-1112

東海村村松2401-2

oona_toukai@yahoo.co.jp

電話・ファックス 029-284-0761

《12月議会議案より》

子どもの医療費無料化を現物給付(初診料のみ窓口負担)で 中学3年生までに引き上げる条例改正

- - 東海村医療福祉費支給に関する条例の一部を改正する条例 - -

今議会には条例改正議案が6件だされました。うち1件は、子どもの医療費無料化政策の年齢拡大です。

・年齢は、条文では「満15歳に達した日の属する学年の終わりまでの間にある者」と書かれています。

・また外国人登録された満6歳以後15歳に達した3月31日までの期間にある子。

・親の所得制限はありません。・外来の医療費・薬代、入院の医療費・薬代・食事代・部屋代とも支給されます(シロップ薬の容器などは自己負担)。

・医療費の支給方法は、初診料600円のみ窓口で負担しますが、領収書を村に出さなくても口座に振り込まれます。その他は窓口負担なし。

・県外での医療機関の場合、従来どおり窓口で一旦支払い、領収書を役場に届け、後日口座に振り込まれる方法です。

この改正が可決されれば、子育て中の世帯への支援策として大きく寄与すると見られます。



もう1件の議案

東海村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

国保税の賦課方式が変わるため、税額が変わる案です。

従来 所得割 資産割 均等割 平等割の4方式

新年度 所得割 均等割 平等割の3方式

賦課割合 現在 70(応能割):30(応益割)
(所得割・資産割):(均等割・平等割)

新年度 60(所得割):40(均等割・平等割)

今回の「改正」案でのポイントは、賦課割合70:30を維持するかどうかにあります。

応益割比率が上がることは、低所得者や、国保加入者数が多い世帯は、税額が引きあがることになります。

私は、比率を70:30に維持するよう求めます。

原電東海第二“出力5%増”は危険増大

日本原電東海第二発電所は(沸騰水型、電気出力110万キロワット)、新しい核燃料を従来より多くするなどして原子炉の熱出力を上げ、発電量を約5%増やす計画を、今年5月に発表しています。現在この計画について、国への申請準備を進め、国の許可や地元の同意を得て2010年度にも実施したいとの意向です。



原電ホームページより

既存原発の本格的な出力増強計画は国内では初めてです。日本原電は「安全性は十分確保できる」としていますが、熱出力を上げると原子炉内の熱量や配管を流れる蒸気の量などが増えます。

東海第二発電所は、定期検査の最終段階である調整運転においてトラブルをくり返し、毎回約6ヶ月を要しています。この実態は、「老朽化の表れ」を顕著に示しているものです。

しかし原電は、私が6月の議会原子力特委の原電視察の際、この件で「老朽化の表れではないか」と質問したのに対し、原電は、「原発に老朽化は絶対にありません。人間の身体とは違うのです。点検して必要なものを交換すればそれで大丈夫なのです。一部の人が老朽化していると言っているようですが」と、驚くような回答をしました。老朽化を心配しているのは一部の人の決め付けのはなぜでしょうか。

新增設が難しいと判断するなか、これに代わるものとして既存原発の運転長期化で、強引に乗り切ろうとしている事業所の意思の表れではないかと思えます。しかし、これに加えた出力5%増では危険はいっそう増します。耐震安全評価の最終報告も出ていない現在、出力増計画に触れるのはなおさら問題です。

バックナンバーは <http://www.jcp-net.jp/ibahoku/toukai/oona/> でお読みいただけます